


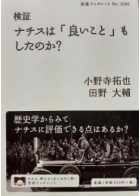




読書会読書グループのための
十冊文庫目録 追録 No.39





(令和五年度)

千葉県立図書館

令和六年三月現在

【新規購入タイトル】

| 書名・著者 | 解題 |
|---|--|
| <p>硫黄島上陸 友軍八地下二在り 酒井 聡平 著</p>  | <p>現地での戦死者二万超のうち、いまだ一万人以上の遺骨が見つかっていない硫黄島。戦死者達は一体どこに眠っているのか。なぜ未だに遺骨の多くは発見されていないのか。遺骨収集団として硫黄島に四度上陸し、日米の機密文書も調査した新聞記者が、「硫黄島の戦い」の謎を追ったルポルタージュ。</p> <p>令和五年刊 三三五頁 講談社</p> |
| <p>検証 ナチスは「良いこと」もしたのか？ 小野寺 拓也 著</p>  | <p>「ナチスは良いこともした」という議論は国内外で定期的に繰り返されるが、それは正しい言説なのか。功績とされがちな事象をとりあげ、ナチズム研究の蓄積をもとに、事実性や文脈を検証。歴史修正主義が影響力を持つなか、多角的な視点で歴史を考察することの大切さを訴える。</p> <p>令和五年刊 一一九頁 岩波書店</p> |
| <p>植物少女 朝比奈 秋 著</p>  | <p>美桜が生まれた時からずっと、母・深雪は植物状態だった。成長する美桜と時が止まってしまった母親の関係は、時間が経つにつれて少しずつ変わっていく。現役医師でもある著者が、唯一無二の母子の在り方を丁寧に描いていく。「生」とは何かを考えさせられる作品。</p> <p>第三六回 三島由紀夫賞 令和五年刊 一七八頁 朝日新聞出版</p> |
| <p>他者の靴を履く ブレイディ みかこ 著</p>  | <p>「他者の感情や経験などを理解する能力」であるエンパシーと、「私が私自身を生きる」アナキズム。二つが邂逅し、融合していく思索の旅を著す。現代社会の様々な思い込みを解き放ち、〈多様性の時代〉のカオスを生き抜くための本。</p> <p>令和三年刊 三〇二頁 文芸春秋</p> |
| <p>鉄道小説 乗代 雄介 ほか 著</p>  | <p>個人史と鉄道のさまざまな風景が交差する「人と鉄道の記憶」についての物語を集めた小説集。主人公が飼い犬と共に地元の思い出を辿る「犬馬と鎌ヶ谷大仏」(乗代雄介)、第四七回川端康成文学賞受賞作の「反対方向行き」(滝口悠生)等、五編を収録。</p> <p>令和四年刊 二五三頁 交通新聞社</p> |
| <p>業平 小説伊勢物語 高樹のぶ子 著</p>  | <p>歌物語の不朽の名作である「伊勢物語」を、現代小説という手法で蘇らせた長編作品。主人公とされる九世紀の歌人在原業平の生涯を、色恋の和歌を中心に据えてみやびな語り口調の文体で鮮やかに描く。登場人物の色香や千年かけて育まれた日本人の美意識が詰め込まれた作品。</p> <p>令和二年刊 四五八頁 日経BP 日本経済新聞出版本部</p> |

| | |
|---|--|
| <p>書名・著者</p> | <p>解題</p> |
| <p>ハンチバック 市川沙央 著</p>  | <p>先天性の疾患による側弯症を抱える井沢釈華は、グループホームの十畳ほどの部屋でこたつ記事を書き、通信制大学に通い、夜は「小説を投稿する日々を送っている。ままならぬ身体を描ききる筆致と作品を貫く鋭いユーモアで、文学界に衝撃を与えた作品。」 第一六九回 芥川賞 第一二八回 文藝界新人賞 令和五年刊 九三頁 文芸春秋</p> |
| <p>光のところにいてね 一穂 ミチ 著</p>  | <p>古びた団地の片隅で出会った結珠と果遠。全てが違う二人は互いに強く惹かれ合う。ずっと一緒にはいられないとわかっていながら。名前がつけられない感情を抱えた少女達の、四半世紀に及ぶ出会いと別れの物語。 令和四年刊 四六二頁 文芸春秋</p> |
| <p>牧野植物園 渡辺 松男 著</p>  | <p>筋萎縮性側索硬化症(ALS)と闘いながら、人間と生き物を等しく扱った独特の自然観の短歌を詠む著者の第十歌集。牧野植物園に行った時の思い出を詠んだ一首など、口語やオノマトペを自在に使用して詠んだ、美しく生命力に溢れる歌が多数収録されている。 第七三回 芸術選奨文部科学大臣賞 令和四年刊 一八九頁 書肆侃侃房</p> |
| <p>窓ぎわのトットちゃん 続 黒柳 徹子 著</p>  | <p>国民的ベストセラー『窓際のトットちゃん』の四十二年ぶりの続編。家族のこと、戦時中の生活、疎開した青森での出来事、学校での思い出、女優になった時のこと。「トットちゃん」の青春時代が、ユーモアあふれる文章で生き生きと綴られる。 令和五年刊 二五三頁 講談社</p> |

【所蔵済み買替タイトル】

| | |
|------------------------------|--|
| <p>書名・著者</p> | <p>解題</p> |
| <p>兎の眼 灰谷 健次郎 著</p> | <p>新卒教師の小谷先生が受け持ったのは、学校で一言も口をきかない一年生の鉄三だった。心を開かない鉄三に打ちのめされる小谷だったが、次第に彼の豊かな可能性を見出していく。 平成十年刊 三三九頁 KADOKAWA</p> |
| <p>蟹工船・党生活者 小林 多喜二 著</p> | <p>海軍の保護のもと、乗員に過酷な労働を強いて暴利を貪る蟹工船。人権を剥奪された労働者のストライキを扱う「蟹工船」と、近代的軍需工場の計画的な争議を描いた「党生活者」。日本プロレタリア文学の代表作を収録。 平成二十年刊 三〇〇頁 角川書店</p> |
| <p>金閣寺 三島 由紀夫 著</p> | <p>吃音と醜い外貌に悩む学僧・溝口にとって、金閣とは「美」そのものだった。それなのになぜ、彼の中で憧れは憎しみに変わったのか。実際に起こった金閣放火事件を素材にした、三島文学の不朽の名作。 令和二年刊 三八三頁 新潮社</p> |

※十冊文庫の「書名目録」は、千葉県立図書館のホームページからご覧いただけます。
(トップページ左側「各種資料リスト」の「十冊文庫」のページに目録あり)